

## 熊本城内の新補石材集積について

被災した石垣の石材で、再使用ができないほど状態が悪い石材は、新しい石材に交換します。この新しい石材（新補石材）は、金峰山周辺の工事の際出した石です。現在高橋公園北側（Jターミナル）と野鳥園東側で管理しています。



高橋公園北側

野鳥園東側

## 熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000m<sup>2</sup>



### 平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

※震度での被害を含む

種類	被害数量	内 容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石 壁	崩落・膨らみ・縫み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600m <sup>2</sup> (全体の29.9%) (うち崩落約8,200m <sup>2</sup> (全体の10.3%))
地 盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345m <sup>2</sup>
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など

## 『復興熊本城Vol3 天守復興編 II』

書店にて発売中です！



平成28年(2016)の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の記録集です。  
Vol.3では、昭和35年(1960)の天守再建工事から成までの様子や、昭和・平成の鷹瓦の製作、令和元年度・半期までの復旧の様子などを収録しました。  
現在、熊本県内の書店などで発売しています。  
Vol.4は、2020年12月刊行予定です。

熊本城ミュージアム  
わくわく祭

期間：9月19日(土)～11月29日(日)  
場所：くわくわく2階 ピュラウンジ

内容：熊城天守閣再建から10年を迎えたのを記念し、天守閣にまつわる「写真」の展示を行います。市長のみなさまから集められた写真を中心に、明治～令和、天守の歴史を振り返りながら紹介をします。皆さまの写真が多い多くの方の想い出と重なる展示を目指します。

料金：入館料(大人300円、子ども(小・中学生)100円)  
(お預かり熊本との共通入園券もあります)

熊本城写真展  
～絆をつなぐ～  
http://www.kumamoto-tourism.jp/exhibition/112800/

熊本市中央区二の丸1-1-1  
096-288-5600

開館時間など詳細は  
ホームページまで →

熊本博物館

「ひとしがた、いのりのかたち－肖像形刻の世界－」  
令和2年(2020)12月6日(土)～令和3年(2021)3月31日(日)

平成30年度に国宝補助金を得て修復した重要文化財「ひとしがた、いのりのかたち－肖像形刻の世界－」(所蔵：宮内省、管理団体：熊本県)を中心に、明治～令和、天守の歴史を振り返りながら紹介をします。皆さまの写真が多い多くの方の想い出と重なる展示を目指します。

料金：入館料(大人300円、子ども(小・中学生)100円)  
(お預かり熊本との共通入園券もあります)

熊本市中央区二の丸1-1-1  
096-288-5600

開館時間など詳細は  
ホームページまで →

熊本博物館  
KUMAMOTO CITY MUSEUM

（木造坐佛と浮彫彌陀坐像）  
（木造坐佛と浮彫彌陀坐像）  
（木造坐佛と浮彫彌陀坐像）  
（木造坐佛と浮彫彌陀坐像）

## 熊本県立美術館 本館 (11月14日～12月13日)

よみがえった名宝—修復された細川コレクション

「永青文庫常設展示復興基金」に  
よって修復された屏風巻絵、熊本地  
震で被災し、修復が完了した作品を  
展示。また、美術館コレクションも  
同時展示。

### ◆その他の下半期の展覧会

- ・永青文庫創立70周年記念「歴史をこえて」(細川の名宝)  
(9月18日～11月8日)
- ・新見児(大名)・細川家の日々の  
お道具 (10月3日～12月13日)
- ・名君細川重賢と時習館の英雄たち  
(1月9日～3月21日)



修復風景：行将野山山案(行将院) 永青文庫蔵(当館内蔵)

熊本市中央区二の丸2番  
096-352-2111

開館時間など詳細は  
ホームページまで →

# 熊本城

～復興に向けて～

令和2年度 秋冬号



\*施設の臨時休館や開催を変更する場合がございます。詳細はお出かけ前にご確認ください。

←新型コロナウイルス感染症の影響により公開を変更する場合がございます。最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

電話：096-352-5900

熊本城調査研究センター 電話：096-355-2327

## 天守閣の復旧工事

### 大天守の内部工事

地階は、入園者が石垣に近接する場所であるため、石垣の正面に金属製の支柱と高強度の金網を設置し安全対策を行ないました。また、今まで階段のみで昇り降りが困難だった方も天守閣に入れるように、利用制限を設けた小型エレベーターを新たに設置しました。最上階は白木の木質空間とし、床や柱や天井には熊本県産材の桧を使用した、一新された空間になっています。



地階石垣と安全対策



小型エレベーター



一新された大天守最上階



最上階南側の仕上がり

### 小天守4階足場解体

2020年8月に、小天守4階の足場の解体を行ないました。小天守4階がより見やすくなっています。  
年末には、足場がなくなり、全体が見えるようになります。



小天守4階 東から



小天守4階 南東から

## 調査研究の成果

### 大天守附櫓

2020年8月に大天守附櫓石段の復旧が完了しました。この石段は昭和35年（1960）天守再建時に築かれたものです。石垣の復旧に先立ち、確認調査を実施し、本来の大天守への進入路である大天守附櫓台石垣を確認しました。



埋没石垣確認状況（赤矢印）（2019年2月10日）



発掘作業風景（2020年7月7日）



埋没石段（明治時代以降築造）確認状況（2020年7月8日）



大天守附櫓石段復旧状況（2020年9月13日）

### 監物樁

被災樁解体後で石垣解体  
修理前に、これらをどのように復旧するかを考える情報  
を得るために発掘調査を行いました。  
結果、近代の土留め用石垣や壇に塗かれていた江戸時代の瓦などが出土しました。



埋没していた石垣を確認（2020年3月2日）



発掘作業風景（2020年3月9日）

### 要人樋

2020年5月から、飯田丸五階櫓下の要人樋の石垣解体工事を行っています。解体調査によって江戸時代の建物の礎石と明治時代の石組の溝を発見しました。江戸時代の遺構を守りながら工事が進んでいます。



江戸時代の礎石確認状況（2020年5月27日）



石組の溝（1889年以降設置）（2020年6月8日）



石垣解体作業（2020年6月26日）

\*写真の日付は撮影日